丸亀町壱番街駐車場（商店街共同駐車場）
－城下町の大手門前に現代の厩をつくる－

■建築概要

所在地	香川県高松市内町2-1
用途	駐車場、店舗
敷地面積	1,725.77㎡
建築面積	1,397.71㎡
延べ面積	7,461.46㎡
高さ	24.06m
構造	鉄骨造（一部ＳＲＣ造） 地上6階
地域地区	商業地域・準防火地域（90/500）
駐車台数	223台

北からの全景＊

＊ 西側外観

■まちの景観をこわす駐車場－それでもつくらなければならない－

コンパクトシティを目指しながらも車の利便性とも共存していかなければならないのが地方都市の現実である。そして、中心市街地再生のために次々とつくられる立体駐車場が、まちの景観を台無しにし、歴史性のある中心地の魅力を逆に損ねている。

一般に次のような条件のもとで立体駐車場は設計される。

1．ローコストのためファサードがつくりこめない。
2．Ｓ造のブレース構造のため規格品、工場製品的な味気なさをもつ。
3．換気や排煙用に高い開放性が要求される。そのため、壁をなくし内部を露出させるか、せいぜい規格品の最も安いタイプのアルミルーバーを使わざるを得ないのが現状。

かくしてどこでも同じような、安っぽい表情の立体駐車場が街なかに堂々と出現する。

■今回工夫したこと
－悪条件でもよいものはできる・これからのモデルをつくる－

私たちが設計した駐車場は地方都市の一番店であるデパートの隣地に建つ。また今は面影がないもののかつては旧大手門前の橋詰で、厩のあった場所という都市の要に位置する。安っぽいものはつくれない。しかし、前項で挙げた条件は変わらない。むしろ22万円／坪とコストは極端に厳しい。

その条件のもとでも「よい駐車場」はできる。私たちはＡ～Ｄに示すような工夫を行った。

A. 最小の壁面積でファサードデザインを構成する

一様にルーバーなどで覆うのではなく、できるだけ外壁を覆う実面積を少なくすることでコストダウンを図った。壁がなく外部から中が見えている部分もデザインの要素として組み入れた。覆われていない部分も緊張感のあるプロポーションのもとでは十分ファサードデザインに参加することが確認できる。

＊

北側外観；何も覆っていない部分（中の駐車スペースが見えている部分）もファサードデザインの一部とする

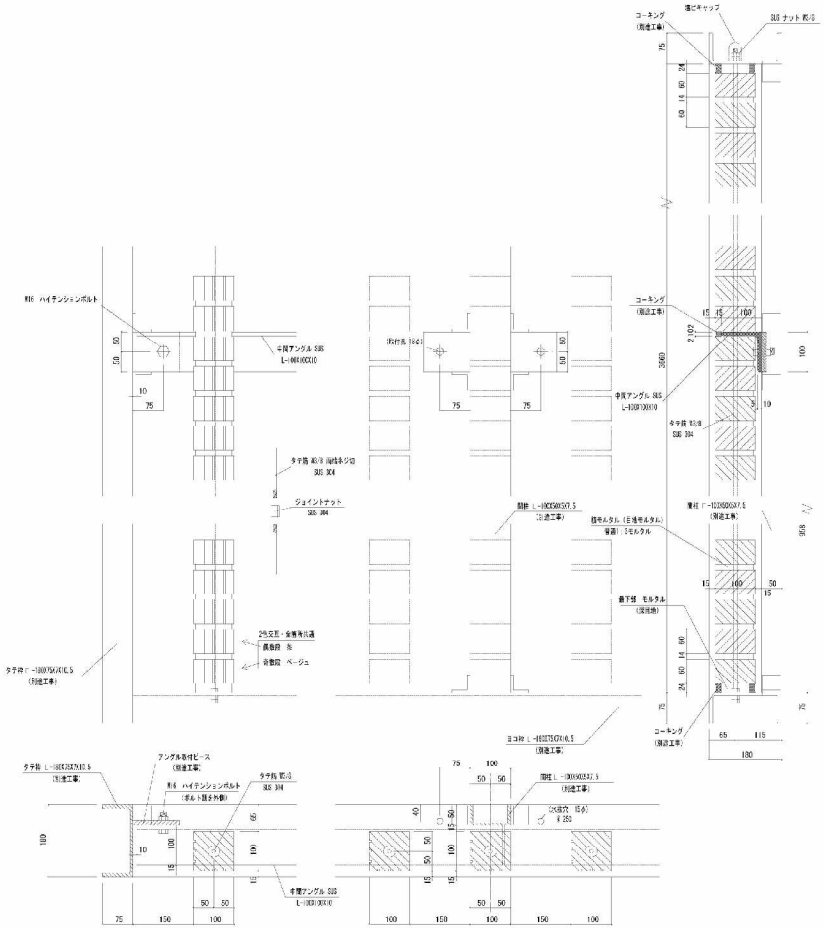
＊ 写真撮影：合田光彰 氏

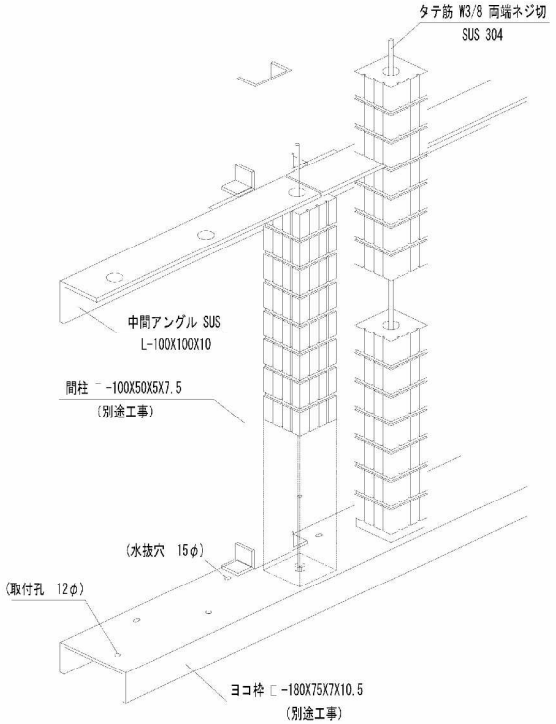
B. レンガでルーバーをつくる。どこにもない表情をつくる。

チープな既製品の寄せ集めという既成のイメージを払拭したいと考えた。そのためレンガを現場でつみ手づくりのイメージを外観に表現した。本来は重厚な壁を作るレンガでルーバーを造るという意外性も意図した。レンガ単体は普及品であるが表面をスクラッチすることで既製品とは違った深みのある表情を作り出した。レンガルーバーの間は大きく開いているため「実施工面積」は少なく低コストが実現できた。

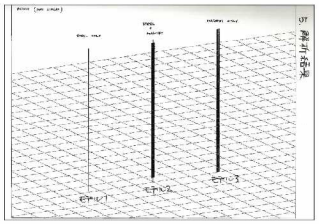
レンガによるルーバーは類例がないため有限要素法による解析を行うとともに、原寸のモックアップ模型を作成し、安全性施工性などを十分に検討した。

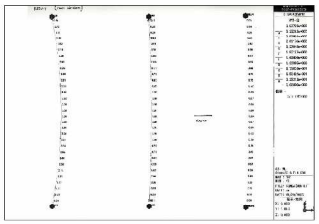
レンガを積み上げたルーバー





■有限要素法による解析





レンガルーバーを近くで見ると、手づくりのイメージが伝わる *

* 写真撮影：合田光彰 氏

C. 印象的な場面をつくる

駐車スペースそのものはコストの関係から標準的なものとせざるを得ない。しかし通路や階段室などの一部を印象的なものとすることで、駐車場全体のイメージを変えることができる。

＊

通路；三越に隣接することから、地元出身の画家猪熊弦一郎がデザインした三越の包装紙をイメージさせる天井をつくった。ただしここでもコンクリート打ち放しの壁と石膏ボードという安い素材のくみあわせを用いている。

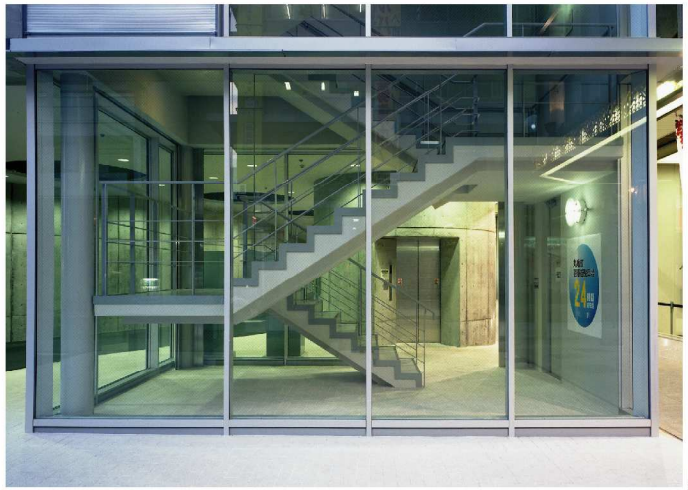
＊

西側通路出口

「華ひらく」（猪熊弦一郎原画）
写真は三越homepageより引用
(http://www.mitsukoshi.co.jp/)

＊ コーナー部見上げ

階段室 ＊



1階 階段室 ＊

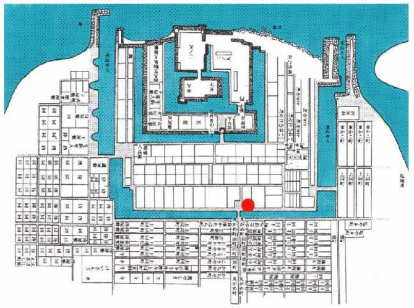
＊ 写真撮影：合田光彰 氏

＊

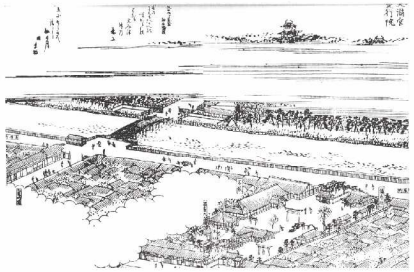
D. 入り隅や、武者窓をイメージさせるルーバーで歴史的な環境にふさわしい表現とする

本駐車場は城とまちの接点、大手筋の橋詰に位置する。コーナーを伝統的な入り隅の手法で構成すること、武者窓を髣髴させる竪ルーバーを用いること（丹下健三氏の香川県庁舎ではコンクリートで武者窓を作っている）で歴史性を表現している。

城と街の接点、大手筋の常盤橋の橋詰という歴史ある街角に位置する。



かつてはこの敷地に厩があった



＊ 写真撮影：合山光彰 氏

海と城に接近し、瀬戸内海の海と島、そして城（玉藻公園）が目近に見える絶好のビューポイントに位置する

屋上より瀬戸内海と島（女木島、男木島）をのぞむ

■今後実現していくこと－屋上を都市の空中オアシスとすること－

今回工事では実現できなかったが、発注者はまちの中の駐車場の屋上を使った空中オアシスの構想を持っている。連続傾床式の駐車場の場合屋上も傾かせることが経済的であるが、本駐車場ではあえて平場の駐車スペースとしている。将来条件が許せば、屋上は海を眺める屋上ガーデンとなる。公園のない都心部においては来街者や住む人にとっての貴重な貴重なオアシススペースとなるであろう。

外周部の手すりは、連絡船を思い起こさせるデザイン

子どもが遊べる芝生広場

芝生の広がりの中に島のように浮かぶデッキテラス

今はない連絡船をイメージしたデザインを検討した

地元にアトリエのあるイサム・ノグチのプレイスカルプチュアを置くことも検討した